

【1】子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業

●ふくいチャイルドライン事業

18 才までの子どもがかける子ども専用電話「ふくいチャイルドライン」は 16 時～21 時、毎週月曜日の福井ラインと第 2 第 4 水曜日の奥越ラインで 1,742 件の電話を受けました。受け手継続研修会は 9 回開催し事例検討や自分を知るワークショップ、電話を使ったロールプレイを行いました。また発達障害についても学び受け手の質の向上を目指しました。今年度も教育委員会の協力を得て県内の小中学生にカード 57,000 枚を配布しました。新聞に受け手ボランティアの減少記事が掲載されたこともあり、3 月に行った受け手ボランティア養成講座ではたくさんの方が受講し、新しく 36 名の受け手ボランティア登録がありました。

●みんなのあそび事業

あべこべ学校 2018 では、子どもが先生、大人が生徒になって伝えることの難しさや心地良さを体験しました。自然体験活動では小学生を対象にして秋や冬の森で散策を楽しみました。

●子どもフェスティバル事業

10 月 28 日、駅前ハピリン広場ハピテラスにおいて 6 回目となる子どもフリーマーケット「ボクたちのお店」を実施しました。申込は定員をオーバーし、子どもたちの関心の高さがうかがえます。子どもの自主性を育む事業として、当日だけではなく事前の説明会を重視しています。また、保護者にむけてはサポートに徹してほしいことを伝えました。災害の多い年だったため、説明会で子どもたちに「自分達にできることはないか」と呼びかけたところ、4,217 円の募金が集まり、福井県日本赤十字社に託しました。

●木田児童クラブサポート事業

木田児童クラブ・第 2 木田児童クラブ運営委員会の委託を受け、行事企画に関するサポート、支援員の教育に関するサポート、保護者へのサポート及び苦情に関すること、この 3 つの柱を基本に運営業務をサポートしました。

【2】子どもと文化に関する交流、サポート及び人材育成事業

●表現やコミュニケーションを伝える事業（表現ひろば）

ドラマ・エデュケーションの手法を取り入れて子どもたちが表現活動を楽しく体験しました。演劇キッズ 2018 ではゼロからつくるおしばい、ごっこランドでは子どもたちが遊びを通して自由に表現しました。また適応指導教室では他者とのかわかりが苦手な子どもたちにコミュニケーションを指導しました。

●大人が学び合う講座事業

昨年に引き続き「困難を抱えた子どもへの理解と支援」をテーマに 3 回の講演会を実施しました。特に 1 回目の笹森理絵氏は発達障害の当事者（本人かつ母親）であり支援者（精神保健福祉士）という立場から興味深い話が聞けました。

【3】文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び連携事業

●県内小学校・幼稚園・社協・その他子育て関係団体に舞台や人形劇などを紹介しました。

夏休みに福井市児童クラブ連絡協議会との共催で人形劇「アラビアンナイト」を上演し、多くの子どもたちが生の舞台を鑑賞しました。また県立大学の学生を対象に「ボランティア論」や「子どもの権利条約からみた子どもの人権」について講演しました。また委託事業の福井市児童クラブ連絡協議会事務局ではクラブ支援員に向けての研修などを行いました。

【4】出版及び広報事業

●広報誌「こども Channel」を年間 3 回計 6500 部発行しました。

特集「子どものチ・カ・ラ」は去年から継続しているテーマです。子ども NPO センターの支援者、子ども関係団体、教育機関、公共施設などに送付しました。